

三沢市地域公共交通会議 会議録

会議名称	令和3年度第6回三沢市地域公共交通会議					
開催日時	令和4年3月25日（水）14時00分					
場 所	三沢市役所本館4階 大会議室（会場及びオンライン参加の併用開催）					
出席者	会 長	小渡 章好	副会長	河村 一典	監 事	山内 修一
	監 事	沼田 巖	委 員	内藤 佑次	委 員	長内 誠
	委 員	古川 達夫	委 員	池田 守	委 員	佐藤 美仁
	委 員	向中野 貢	委 員	佐々木 亮	委 員	吉村 聖毅
	委 員	篠田 浩一	委 員	松橋 一典	委 員	小山内 一弘
	事務局	三沢市：坂岡参事兼課長、和田課長補佐、古川係長、中村主査、門馬主事 株式会社ケー・シー・エス：新宮、増子				
会議次第	1 開 会 2 会 長 挨 拶 3 議 事 案件「三沢市地域公共交通計画（素案）について」 4 閉 会					
会議の経過及び審議結果（概要）						
1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 三沢市地域公共交通計画（素案）について ・本日の議事について坂岡参事兼課長より説明。 ・内容について株式会社ケー・シー・エスより説明。 <主な意見> (小渡会長) ・大量な情報ではあったが、今までの議論、会議等を経て素案がまとまっている。この素案は協議事項である為、不明確や物足りない部分を更に揉んで、案として会議を経て三沢市へ提出するもの。その後パブリックコメントで市民の皆さんからご意見をいただく。何かご質問・意見その他あるか。 (向中野委員) ・目標値についてだが、2番の収支率というのはバスの運行経費に対する運賃収入の割合か。						

(ケー・シー・エス)

- ・三沢市コミュニティバスに掛かる運行経費に対する実際の収入の割合を収支率として計算している。令和8年度も同じような方法で検証したいと考えている。

(向中野委員)

- ・収支率が28%とあるが本当であれば100%が望ましいのではないかと。

(小渡会長)

- ・ここには28%の実績とそれを維持していくという書き方がある。先程の説明に人口が減っていく中で分母が小さくなっていく中で現状維持に努力を要するとあった。28%というのは他の公共交通としてのバス事業が困難な地域の事例と比較してどのような数字なのか。

(ケー・シー・エス)

- ・三沢市で多く利用されている区間は150円市街地内区間である。一般的に路線バスは乗った距離に応じて運賃が上がるが、三沢市コミュニティバス「みーばす」はそもそも黒字にするためのものではなく地域住民の利便性を考えて走らせているものであり100%に近づけるのは本来の目的ではない。また、他の地域と比較して28%という数字は決して低い数字ではない。収支目的ではないが、人口が減少する中でも運行維持のためには一定の利用は必要ということで目標値として設定させていただいた数字である。

(向中野委員)

- ・承知した。
- ・また、p.12 乗合タクシーについてだが、令和3年3月に停止になり、それに伴い空港からの定額タクシーへの参画を行政から提案頂いた。実際の料金よりマイナス30%の定額な為、定額タクシーは早期に止めたいと思っている。バスは72%補助してタクシーはマイナスで走るのは疑問である。

(事務局)

- ・乗合タクシーと定額タクシーについて簡単にご説明したい。
- ・p.12 乗合タクシーについては三沢空港振興会という協議会で周辺市町村と負担金を出し合いながら三沢空港の利用促進を図る目的で事業開始した。空港から十和田市街地へのアクセスが悪いという課題に対して約10年前から予約制で始まったが、乗り合いの形がコロナ禍で時代に合わず令和3年3月に一旦休止となっている。
- ・空港定額タクシーは青森県の交通政策課が主体で、私共は意見の聞き取りや周知の手伝いをしている。乗合タクシー休止に伴って、三沢空港から十和田市街地への定額タクシーを県で設定した。エリアの最短の距離の金額設定になっている為、割安の金額設定になっている。青森県のタクシー協会と協議し市内のタクシー事業者の説明している。

(事務局 和田)

- ・地域住民の利便性向上の為 100～150 円区間はコミバスの現状サービスの継続をしたいと考えている。バスの業者も減っている中で、利用が少ない路線は見直しが必要となる。
- ・また、p. 39 に示す公共交通の課題の中で重要エリアとなっている比較的バス停が遠い箇所は、デマンドタクシー等の新たな輸送サービスを検討していきたい。

(小渡会長)

- ・八戸市には最終新幹線に乗り換えてくる方のために乗合タクシーがあったがコロナ禍で休止した。コロナの影響下で出来ない事でも、正常に戻った時には議論される価値があると考えられる為、向中野委員の問題提起は今後の課題になる。
- ・八戸市の例だがタクシー業者が自宅に出前を届けるサービスがある。それがきっかけでタクシー運転手を指名し、買い物等に使用するなど、まだ明確になってない様々なニーズをくみ取って『win-win』の関係を築いていけたらと考える。

(向中野委員)

- ・利用者の声だが、免許返納したが非常に不便で「返納しなければよかった」という高齢者の声を聞く。タクシーに乗って頂ければいいのだが。

(事務局)

- ・三沢市では免許返納者に対して、商品券やバス・タクシーのチケット等、選べる特典があるが、向中野委員からはそのチケット等を消費した後の移動等が不便という声が多数だと以前から頂いていた。
- ・目標設定ではバスの方に偏りが見られるが、今回の計画では基本的にバスだけでは行き届かない新たな交通手段の検討も進めていきたい。また、タクシー業者が行政と行っているサービスのタクシー業者側の負担についても県の方に確認していきたい。

(向中野委員)

- ・いわゆる免許返納者を助けられるのがタクシーだと思う。免許返納の一時的な補助についてもこのサービスが始まる以前に返納した人や免許所有していなかった高齢者には何もないというのは行政サービスとしては不公平なのではないか。

(事務局)

- ・この問題は三沢市に限らず各地の問題である。行政サービスで様々な取り組みをしている市町村が確かにある為、調査して考えていきたい。

(小渡会長)

- ・高齢者は増える一方である。素案は協議の対象でありますので、今のような指摘を頂きながら新年度議論を進めていきたい。交通計画に対してのご意見等はあるか。

(長内委員)

- ・交通計画のマスタープランとして、ある程度網羅的に記載されている。
- ・また、p. 62 にマスタープランの他、地域公共交通の利便増進事業とあるが、これは認定を受けて国の補助金が活用できる。立派なマスタープランを作成し、それに基づいた具体的実施計画を視野に入れ国の補助を活用していただきたい。

(沼田監事)

- ・高齢者には一時的なサービスがあるが、その後の事まで安心して暮らせるサービスを考えたい。また、教育委員会の方を交え、移動手段としてバスを使う頻度が高い、高校生やその保護者の意見等も取り入れて欲しい。コンビニやスーパーと協力するという記載があったが、すごく良いと感じた。

(事務局)

- ・三沢市はよこまちストアが実際に待ち処になっていた。まだ見ぬ商店等があると思うので、安心して使用できる場所等について皆様から情報提供いただきたい。また、教育員会を交える件についても良いご意見として頂戴する。

(内藤委員)

- ・市内だけではなく市外にもかなり通学している為、子供たちの通学に対する利便性の向上については、PDCA の中でも D を早めて C をじっくりと行っていただきたい。

(小山内オブザーバー)

- ・免許の自主返納について、かなりの高齢者の方でもまだ返納出来ない方もたくさん居る。返納後の移動手段等を明確に明示してあげることが大切だと思うので、検討願いたい。

(小渡会長)

- ・本日、協議事項として設定された議題以外にも自由な意見をいただいきたい。協議事項としてご異議なければ現在の公共交通会議の素案として三沢市に提出したい。

(一同)

- ・異議なし

4 閉会

以上